

2022年3月10日

学校法人 芦屋学園
理事長 山田 英男 様

要 望 書

当アシヤカレッジ同窓会は、芦屋学園の今後の発展に貢献する為にも、学園理事会及び学園の運営に必要な活動や支援を行っていく事が重要である事を再確認しました。

しかし、学園の存立に関わる様な過去の事象を見過ごす訳にもいかず、同窓会として役員会で協議の上、2021年末の社員総会で本要望書を再提出する事を決議致しました。

当同窓会としては、学園に対する貢献活動を強化する為に、同窓会を法人化し活動も会計の透明化も進めてまいりました。

しかし、当同窓会が今日に至るまでに、添付の前高橋同窓会会長が、全同窓会会員に送付した手紙の内容と、同じく当同窓会が提出した要望書のご回答が頂けておりません。

当同窓会が会員に広くサポートを募る為には、それ相応の正当性と整合性が必要と考え、その為にも下記の資料を以前お送りした要望書に沿ってご公開頂きたいと思っております。

- ① 試算表(P/L相当)過去15年分
- ② 財産目録(BS相当)過去15年分
- ③ 資金繰り表 過去15年間の推移表を含む
- ④ 借り入れ目録
- ⑤ 本年度実績及び推移予測 並びに予算との比較評価表
- ① ~⑤に加え、理事会による過去15年間の総括及び今後10年間のプロジェクト
・ 高橋征主氏が理事長の頃、100億円に上る現預金が10年間で残高が無くなり、その後、金融機関より借り入れをした事実確認と経緯説明
・ 赤字決算の中で数千万円に上る退職金を高橋征主氏及び大八木氏に支払った当時の理事長及び理事会に対する問題の究明及び責任追及の意志が現理事会に有るか無いか、またその根拠
・ 貴理事会は3億円弱の私学助成金という（我々の税金）公的資金を受けているにもかかわらず、毎年度のキャッシュフローがネガティブというのが異常な会計であり、それが不透明な予算計画との認識のうえで金融機関より借り入れをしており、その上で寄付を募られていると言う事の御認識がお有りかどうかを全理事の皆さんから伺いたいと思っております。

以上、ご返答頂きたく要望させていただきます。

なお、当要望書は原文のまま同窓会ホームページに本日以降速やかに掲載する事も理事会の了承を得ております事を追記させていただきます。

以 上

一般社団法人 芦屋大学・短期大学同窓会
代表理事 会長 白石 方 一

平成 26 年 12 月 18 日

アシヤカレッジ同窓会 会員各位

アシヤカレッジ同窓会

会長 高橋 忠 男

拝啓 初冬の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

ご報告が遅くなりましたが、平成 26 年 7 月 19 日に開催されたアシヤカレッジ同窓会運営委員会に於いて、同窓会会長に選任いただきました 高橋忠男でございます。甚だ微力ではございますが、一意専心 同窓会の発展に全力を尽くす所存でございます。同窓会会員の皆様のご支援とご鞭撻を賜ります様、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、会員の皆様に、私達が卒業した芦屋大学・短期大学の憂うべき事態をお知らせしなければならぬ状況となり、同窓会役員及び各支部長のご了解をいただき、ご挨拶を兼ねて手紙をお送りさせていただくことにいたしました。

大学・短期大学は、故福山重一総長の残された潤沢なる資金をもとに、運営・経営が行われていたと思っておりましたが、平成 26 年 5 月 12 日 大学事務職員山中俊一氏、岡村重善氏(両名とも大学卒業生)が学校法人芦屋学園事務局に対し、芦屋学園の不透明な経営内容を明確にし、健全な経営を行うことを理事会に求めた公益通報書を提出したという情報を入手し、私を含めた同窓生の数名が、山中俊一氏、岡村重善氏の両名から聞き取りを行いました。

平成 17 年 4 月 大学卒業生 高橋征主氏が芦屋学園の法人を代表する理事に就任した平成 17 年度決算時点では、102 億 5400 万円余りの現預金、有価証券を保有しておりましたが、毎年 11 億 3500 万円の現預金を流失させたことにより、ついに平成 25 年 3 月には 5 億円の借入金を発生させる事態となりました。平成 25 年度末決算においては、現預金 7 億 7200 万円(借入金 5 億円を含む)および退職給与引当特定預金 9 億 5000 万円にまで減少したことが判明いたしました。8 年間で、90 億 8100 万円(各種引当金を含む)を喪失されたことは異常というほかありません。

前理事長の高橋征主氏は毎年巨額な赤字が発生していることを認識していながら、平成 20 年 5 月理事長に就任した以降も経費の削減などを行わず、事態を悪化させ、平成 26 年 3 月 25 日体調不良を理由に突然辞任しました。そして、高橋征主氏が中学校・高等学校の校長として自ら招聘した、芦屋学園とは何も縁のない大八木淳史氏が理事長となり、高橋征主氏は 2 ヶ月後には理事として復職しました。これは、高橋征主氏が理事長を辞任する前から大八木淳史氏と作り上げていたシナリオとしか思わざるを得ないような、人を馬鹿にしたような人事です。

本来、高橋征主氏は、卒業生として故福山重一総長の意志を後世に伝えるべき立場にあったにも関わらず、今回の行動は芦屋学園に関わる全ての方を愚弄しています。

私達卒業生が信頼してきていた高橋征主氏がこのような無責任な経営を行ってきたことを知るとともに、私達が卒業した芦屋大学・短期大学の資金が枯渇し存続が危惧されていることを知った以上、放置しておくことはできません。

この状況について、所轄庁である文部科学省に対して独自に聞き取りを行ったところ、平成 22 年 12 月より芦屋学園理事会に対して指導を開始していたそうですが、遅々として進まない芦屋学園の経営改善に対して、平成 26 年 2 月、改めて着実な実施等による経営基盤の安定確保ができる経営改善計画書の提出を求められたそうです。しかし、皆さんご承知のとおり、芦屋学園は私立学校のため理事会に対する抜本的な改革を強制することができないそうです。

この状況を憂いた同窓生の数名が、平成 26 年 3 月 26 日に理事長に就任し、芦屋学園史上初めて学園の土地を担保に 5 億円の借入れをした大八木淳史氏を始めとした理事数名と平成 26 年 5 月に面談し、公益通報書に対する説明を求めるとともに、芦屋大学・短期大学を存続させるためにも卒業生を理事とし、故福山重一総長の建学の精神をもとに学園を再建させて欲しいと要望しましたが、理事会はこの要望を断固拒否しました。なお、理事会には前理事長の高橋征主氏以外に卒業生は 1 人も入っていません。

同時期、芦屋学園内では、存続を危惧している大多数の教職員が一致団結し、大八木淳史理事長を始めとした理事会に対して、今後の経営改善内容を明確にさせるため団体交渉を開始いたしましたが、明確な経営改善計画を説明できない理事会は団体交渉に応じていません。

その後、私達同窓会役員も再度、大八木淳史理事長と面談し、今後の経営方針等についてお伺いいたしましたが、まったくもって、経営者としての資質を感じる事ができないばかりか、創学の師 福山重一総長の意志を伝承する思いの感じる事ができない発言に対して、辟易としました。

このままでは、教職員が訴訟等の強行手段に打って出ることもあり得る上、平成 27 年度以降の健全な経営方針や展開も明示することもしない、学校法人芦屋学園理事会の無責任な経営を放置しておけば、私達が卒業した芦屋大学・短期大学の存続は風前の灯火となってしまいます。

同窓会としては、芦屋学園の経営を立て直すために卒業生で理事会を構成させて透明な学園運営にあたり、同窓会として誇りの持てる芦屋学園の存続に貢献していくべきだと考え、現理事全員の辞任を訴えていきたいと思っています。

芦屋学園の存続のために、卒業生各位のご理解とご協力をお願いするとともに、ご意見がございましたら同窓会事務局長 山中俊一まで連絡をお願いいたします。

引き続き、芦屋学園の運営・経営についてお知らせすべき事柄が生じれば、皆様にお伝えさせていただきます。

アシヤカレッジ同窓会

会 長 高橋 忠男 (大学 1 期卒業)

副 会 長 青井 清一 (大学 4 期卒業)

” 田村 とし子 (短大 8 期卒業)

事務局長 山中 俊一 (大学 19 期卒業)